

令和6年度			学 校 評 価 自 己 評 価 表										東広島市立下黒瀬小学校									
学校教育目標			かしこく やさしく たくましく ～ 社会に出て通じる力の育成 ～				経営理念 学校経営目標			【ミッション】学校の使命 これからの社会で活躍することができる「力のある子ども」の育成 【ビジョン】 ○めざす学校像：共に高まり 成長する学校 ○めざす児童像：進んで学び合う・自分も人も大切にす・何事も最後までねばり強くやり抜く子ども ○めざす教師像：めざす児童像実現に向け、創意工夫して取り組む教職員												
							自己評価							学校関係者評価			改善方策			担当		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価										
							9月	1月				イ	ロ	ハ								
かしこく（知）	1	学ぶ楽しさを味わわせ、確かな学力をつける。	・基礎・基本の学力の定着・向上を図る。	・授業のねらいを明確にした授業づくり ・下小タイム（朝学習）の充実 ・読書活動の推進	・標準学力調査の平均正答率（標準スコア） ・国語科、算数科の単元末テストの正答率	標準スコア50以上、令和5年度以上85%以上	単元末テスト 国語科 83.7% 算数科 80.8%		97%	B	単元末テストの結果は、国語科・算数科の平均が82.3%であり、目標値である85%をやや下回った。全体的にみると、約3分の2の児童は85%以上の正答率になっていて、順調に学力をつけていると考えられるが、正答率70%以下の児童が約10%いることが課題である。 ・国語科の正答率は昨年度83.9%とほぼ同程度である。その中でも、文章の読み取りに課題があった。 ・算数科の正答率は昨年度83.0%から2.2ポイント下がっている。思考領域、特に発展問題・応用問題への理解に課題があった。	○				今後も研究授業や検証授業を3学年で行う。その研修を通して、手立ての工夫（問題提示の工夫・対話のさせ方の工夫・振り返りの工夫）について研修を深め、より効果的な指導の在り方を考えていく。 朝の帯タイムで計画的に多くの教職員（担任、管理職、専科、支援員）で指導する体制にして、学力に課題のある児童の支援を行い、基礎的な学力の定着に努める。 各学年で行った標準学力検査、全国学力・学習状況調査、単元末テストの結果を分析して把握した課題となる分野を意識し、重点的に取り組む。 発展問題・応用問題にも取り組み、既習の活用の仕方について理解を深める。	教務					
			・児童が主体的に考え対話する授業づくりを行う。	・算数科におけるつける力に応じて手立てを工夫した授業研究の推進 ・研究推進による授業改善	・児童アンケート ①「課題を意識して、授業に参加しているか」 ②「進んで自分の考えを伝えようとしているか」	85%以上	アンケート① 92% アンケート② 84.4%		103%	A	「課題を意識して授業に参加しているか」について肯定的回答が92%であった。これは、児童から問いが生まれるように問題提示の仕方と問いかけを工夫し授業を構成しているからだと言える。児童が1時間の中で何ができればよいかということを明確にして授業が進んでいると言える。一方で「進んで自分の考えを伝えようとしているか」について肯定的回答が84.4%と目標値を下回っている。わからなくて自分の考えをもてていない児童や、「間違ったらどうしよう」といった自信のなさから思いを表出できない児童が一定数いると考えられる。	○				今後も児童から問いが生まれるような授業づくりを心掛けていく。単なる問題提示を工夫するだけでなく、児童にどう問いかけるとよいかということにも意識を向けることで、課題を意識して授業に参加できるようにする。 また、児童が自分の考えを伝えられるようにするために、児童がどのような点でつまずくのかという教師側の予想と、「わからない」という気持ちや誤答を大切にした授業づくりを行っていく。学級の支持的風土を創り上げていくことが、児童の「わかった」「できた」「もっとやってみたい」「表現したい」を生み出すことにつながる。	研究					
やさしく（徳）	2	自他を尊重し、自己指導能力と協働意識を育てる。	・目標を設定し、達成に向けて努力する態度を育てる。	・目標設定と振り返り、評価の工夫 ・児童主体の活動の充実 ・黒瀬スタンダードの推進	・児童アンケート 「目標達成について」 「黒瀬スタンダードについて」	85%以上	目標達成 65.2% 黒瀬スタンダード 87.3%		89.7%	B	児童アンケート「目標達成について」では「前期の目標を達成できた」と答えた児童の割合は65.2%と目標値の85%を下回った。しかし、「目標は達成できていないが、努力している」と答えた児童は31.4%おり、全児童のうちの96.6%の児童は目標を設定し、努力しようとする態度が十分育まれていると考えられる。 黒瀬スタンダードについては、毎月の生活目標に組み入れ、毎月の振り返りを行っている。肯定的評価をした児童は84.5%であった。具体的に行動目標を設定したことで、取組も振り返りもしやすかったのだと考える。一方、年間目標であるあいさつは、90.7%と児童の肯定的評価が高い。しかし、実態は十分でないことから、あいさつについても具体的行動目標を設定する必要があると考える。	○				後期も継続して、様々な場面で目標を設定し、学校全体や学年、各学級で達成できる喜びを感じさせる取組を行っていく。また、後期は「努力している」と答えた31.4%の児童が「達成できた」と言えるような支援を行うことや、3.6%の「努力していない」と答えた児童に肯定的な意識をもたせるような取組を行っていきたい。 あいさつに関しては、本校で定めるあいさつのレベルを意識して指導し、生活委員会の「あいさつ名人」の取組とともに、さらに良いあいさつができるようにしていく。	生徒指導					
			・お互いの良さを認め合える集団を育てる。	・温かい学級づくり ・異学年交流の充実	・児童アンケート 「学級での活動について」 「異学年交流について」	85%以上	96.6% 86.1%		106%	A	児童アンケートの「自分や友達の良いところを言えますか。」という問いに対して肯定的評価を行った児童の割合は96.6%だった。この結果から、自分を含め、お互いの良さを認め合える集団づくりができていると考えられる。また、異学年交流においても、ほとんどの児童が肯定的評価をしており、低学年には高学年と関わる楽しさ、高学年には低学年に配慮して行動することが身に付いていると考えられる。	○				今後も学級での良いところ見つけや様々な取組を通して児童がお互いを認め合う集団づくりを行っていく。また、企画委員会や生活安全委員会を中心に、学校全体での取組や異学年交流を今後も計画・実行していききたい。	生徒指導					
たくましく（体）	3	たくましい気力・体力を養う。	・運動に対する意欲の向上を図る。	・運動量、意欲向上を意識した授業づくり ・外遊びの推奨 ・委員会活動との連携	・児童アンケート 「学校生活の中で、自分から進んで運動をしている」	85%以上	78%		91%	B	児童アンケートの結果は、78%であり、目標値の85%を下回った。各学年、週に一度教室空っぽデーを設け、外遊びをする機会を確保した。教室空っぽデーの日には体育委員会の児童による放送を行い、全校児童へ周知した。また、運動朝会を利用し、全校児童で楽しく体を動かせるような機会を設けた。しかし、進んで運動をしていない児童が一定数いることが課題である。原因としては、熱中症警戒アラートの発令により、昼休憩の外遊びが制限されたことや、体育の授業中に体を動かすことの楽しさをあまり感じさせられていないことが考えられる。	○				今後も体育委員会の児童と連携し、教室空っぽデーや運動朝会などの機会を利用して、全校児童が楽しく体を動かす機会を作る。体育の授業で運動量をしっかりと確保した上で、児童に体を動かす楽しさを感じさせたり、作戦タイムやアドバイスタイムなどを設け、友達と交流する機会を作ったりして、児童の運動意欲を高めるようにする。また、各学年の実態に応じたワークシートを用意したり、構成を考えたりして、児童が目標をもって主体的に授業に取り組む達成感が味わえるようにする。	保健安全					
			・生活習慣を見直し、健康の保持増進への意識を高める。	・生活習慣の振り返りの場の設定（スマイルカード） ・食育の推進 ・委員会活動や保護者との連携	・児童アンケート 「生活習慣をよりよくしようとしている」	85%以上	※早く寝ようとしている88.9% ※3食欠かさず食べた79% ※メディア時間を減らそうとしている85%		99%	B	児童アンケートの「3食欠かさず食べた」の結果は、79%と目標値を下回り、昨年度に比べて低下しているが、その他の項目では前向きな意識が見られる。アンケートで気になるものとして、早く寝ない理由の4割が寝ようと思っても眠れないというものだった。近年、子どもの睡眠障害が増加してきており、本校でも一部の児童にその傾向がみられるため、睡眠についての正しい知識や意識を向けていく必要がある。	○				いずれの項目にしても生活習慣には家庭との連携・協力が必須であり、保護者に正しい知識と方法を伝えていくことが、子どもへの意識・行動変容へとつながると考える。そのため、「ほけんだより」や校内の掲示物、児童への保健指導などで啓発をしていく。	保健安全					
信頼される学校	4	教職員が元気で、信頼される学校を創る。	・安心安全な環境づくりや保護者・地域との連携に努める。	・整理整頓され、創意工夫のある掲示や教室環境整備 ・学校、学級の様子を便りやHPで発信 ・状況に応じた学校からの情報提供	・保護者アンケート 「環境整備について」 「情報発信について」	90%以上	環境整備 92.9% 情報発信 94.8%		環境整備 103% 情報発信 105%	A	保護者アンケート「校舎内外の環境が行き届いている」の肯定的評価は92.9%。「学校は、学校や子どもたちの様子を学校だより、学級通信、ホームページ等で分かりやすく伝えられている」の肯定的評価は94.8%と、目標値90%を超えた。 環境整備についてはスクール・サポート・スタッフや、コミュニティースクール推進員が配置されたこともあり、校舎内外の環境がより安全で快適な環境づくりをすることができた。また、PTA環境整備作業を行い、保護者と児童、教職員で学校の環境整備、美化に努めることができた。情報発信については、定期的に学校だよりや学級通信を発行したり、ホームページの更新をすることができた。	○				安心・安全な環境づくりや保護者・地域との連携を大切にし、引き続き環境整備、情報発信をしていく。 グラウンド北側の樹木が道路の電線に架かっているので、今年度中に剪定する予定である。 ホームページの更新頻度をもう少し上げていきたい。	教頭					
			・効率的な業務を推進し子どもと向き合う時間を確保する。	・学校行事の見直し、精選 ・週1回の定時退校日の設定 ・定時刻の教室の施錠	・常勤職員の1か月の勤務時間外在校時間の平均を45時間以下とする。	年間平均45時間以下	44時間6分		102%	A	常勤職員の1か月の勤務時間外在校時間の平均は、44時間6分で目標値を達成している。 平均45時間を超えている職員もいるが、勤務時間外は、どの職員も児童のために授業準備や保護者への対応等を行っており、在校時間を縮減することが難しい。	○				学校行事の見直し、精選は進んできているが、常に改善する意識をもって取り組んでいく。 時間外在校時間を短くし、身体を休めることでパフォーマンスが向上し効率的に業務を推進することができることもあると伝えながら、管理職が率先して時間外在校時間を短くすることで、職員の早期退校を促す。	教頭					

A・・・100≦（目標達成）
B・・・80≦（ほぼ達成）<100
C・・・60≦（もう少し）<80
D・・・60>（できていない）
達成度＝達成値÷目標×100

イ・・・自己評価は適正である
ロ・・・自己評価は適正でない
ハ・・・分からない

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。